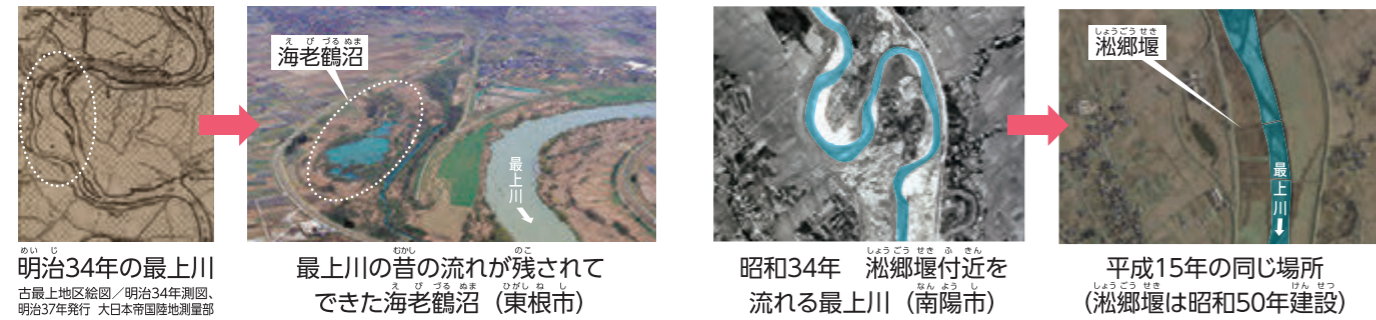


3 最上川の歴史

最上川の歴史は 人々の暮らしの歴史

最上川の最も古い形が誕生したのは、今から約 300 万年前のことです。時代とともに流れを変えていく最上川。その歴史には人々の暮らしが大きくかかわっているのです。

■ 最上川のうつり変わり



明治34年の最上川
古最上地区地図/明治34年測図、
明治37年発行 大日本帝国陸地測量部

最上川の昔の流れが残されて
できた海老鶴沼 (東根市)

昭和34年 淞郷堰付近を
流れる最上川 (南陽市)

平成15年の同じ場所
(淞郷堰は昭和50年建設)



4 枚の絵や写真を見て気がついたことを書いてみよう!



安全な川にするために

大雨が降るとすぐに洪水になって川の流れを変えてきた最上川は、「暴れ川」とよばれ、人々の生活をおびやかすこともありました。そこで人々はいくらしを守るために、さまざまな工夫や努力をしてきました。

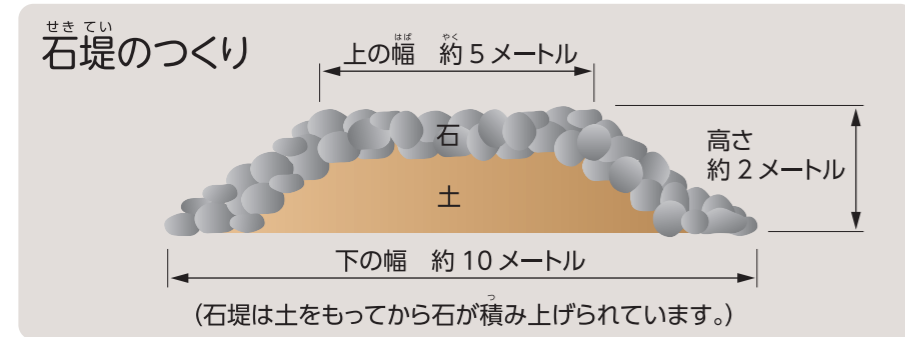
その一人、米沢藩主・上杉景勝の家臣、直江兼続は、城下町を洪水から守るために、一つ一つ人の力で石を積み上げて堤防をつくりました。その堤防は「直江石堤」(地図P.7)とよばれ、米沢市には今もその一部が残っています。



直江兼続
資料提供 / 米沢市上杉博物館



米沢市に残っている直江石堤の一部



舟路を拓く

最上川には、船で人や荷物を運ぶ舟運が江戸時代以前からありました。その舟路はさまざまな人たちの努力で整えられ、次第に大きく発展しました。

山形城主、最上義光は、当時、川が浅くて流れが速く、船で通ることが難しかった最上川の三難所とよばれる「碁点・三ヶ瀬・はやぶさの瀬」(地図P.9)を開さくさせ舟路を完成させました。これによって村山地方の米や荷物を酒田まで安全に運べるようになりました。



山形城主 最上義光
資料提供 / 最上義光記念館



三難所のひとつ 碁点 (村山市)



三難所のひとつ 三ヶ瀬 (村山市)



最上川最大の難所 はやぶさの瀬 (村山市)



はやぶさの瀬にある船引岩とよばれる岩には船を動かすために、つなを引いたあとが今でも残っています。

ことばの意味

- ① 洪水：大雨などで川の水が急に増えること。また、川から水があふれ出すこと。
- ② 堤防：川の水を安全に流すために川の両岸に土や石、コンクリートなどでつくったへい。

- ③ 舟路：川を利用した船の通り道。
- ④ 開さく：川幅がせまい場所や、川底の地べんが浅い場所をけずったりほったりすること。